

福島市立飯野小学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：男女なかよく
学年：第3学年

実施状況

3年生は昨年度、性教育「おへそのひみつ」で、命の始まりやおへその役割について、養護教諭による授業を受けています。人間は、男・女の2つの性がある。もちろん生物学的な機能の違いは考慮する必要がある。しかし、「男だから」「女だから」という理由ではなく、同じ人間として、お互いに思いやりと優しさを持って、協力し合っていける関係について考えさせたい。



児童・生徒の感想

- 男の子にも女の子にもよいところや直したほうがよいところあることがわかった。だから、男の子だから、女の子だからといわないで、仲よくしたい。
- みんなが仲よくするためには、相手のいやがることを言ったり、したりしないようにする。
- 悪いところばかりではなく、友達のよいところを見つけるようにする。
- たたいたり、けったりすると相手がきずつくのでやめる。
- グループなどをつくるときは、みんなで協力する。

参観者の感想

- 少しずつ男女の違いを感じ始めるこの時期に、こうした機会があるということは、子どもたちも幸せだと感じました。男女仲よく生活することだけではなく、人としてお互いのよさを認め合い、思い考えることはとても大切なことだと思います。こうした思いは、自分を大切にし、命を尊ぶことにも結びついていくように思います。
- 親として、つい口にしてしまう「男の子だから、女の子だから～しなさい」という言葉かけが、自然に子どもに「男女の別」の意識を植え付けていくように感じたので、日常の小さな言葉かけにも心を配ることができるといいのかな・・・と考えさせられました。

指導者の感想

- 男女の違いやよさ、直してほしいことなどをどの子にも十分時間をかけて考えさせることができ、自分の意見をまとめることができていた。また、自らの考えを振り返る時間があり、学級活動のよさが生かされていた。
- 子どもたちの生活と密接に関連している内容だったので、家庭生活や学校生活を振り返る機会になった。チーム・ティーチングの機能が生かされていた。
- 3年生のこの時期に「男女なかよく」のテーマで授業を行うことは、発達段階に適していたと思われる。今後は、自分らしさを發揮し、相手の個性を尊重しながら生きていくことが大切であるという視点から、学年に応じた指導をしていく必要がある。